



関中央ロータリークラブ

2016-2017 WEEKLY REPORT



例会日 毎週木曜日 18時30分

例会場 関観光ホテル（関市池尻91-2）

事務局 関市西本郷通5-2-53 TEL0575-24-7332・FAX0575-23-5278

会長：石原 妙生 **副会長**：川村 紳一 **幹事**：波多野 篤志 **クラブ会報委員長**：吉田 和也

2016～2017年
国際ロータリー会長
ジョン F. ジャーム

ロータリーで何か発見を！

2016～2017年度 関中央RC会長テーマ

四つのテスト
・真実かどうか
・みんなに公平か
・好意と友好を深めるか
・みんなのためになるかどうか

本日のプログラム 第1872回例会 2016年9月8日（木）

卓話 ロータリー財団部門補助金小委員会・地区補助金担当副委員長

堀部 哲夫様（関ロータリークラブ）

テーマ 「ロータリー財団のご理解について」 / 担当 ロータリー財団委員会

前例会の記録

第1871回 2016年9月2日（金）

ガバナー公式訪問3RC合同例会

（美濃・関・関中央） / 担当 会長・幹事

*ガバナー公式訪問次第 於：美濃緑風荘

- ・食 事
- ・点 鐘
- ・国歌斉唱 「君が代」
- ・ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱
- ・お客様の紹介

国際ロータリー第2630地区 ガバナー

劔田 廣喜様（高山中央RC）

国際ロータリー第2630地区 地区幹事

清水 幸平様（高山中央RC）

東海北陸道グループガバナー補佐

横山 隆一郎様（各務原RC）

国際ロータリー第2630地区

ロータリー財団部門 補助金小委員会

地区補助金担当 副委員長 堀部 哲夫様
（関RC）

国際ロータリー第2630地区

ロータリー財団部門 補助金小委員会

奨学金・学友担当 副委員長

井上 重敏様（美濃RC）

- ・会長挨拶
- ・委員会報告
- ・出席委員会・ニコボックス委員会
- ・幹事報告
- ・会員表彰
表彰対象

30年以上100%例会出席

90歳以上の会員・在籍50年の正会員

激 励 : 35歳以下の会員

・本日のプログラム 劔田ガバナー「卓話」

・お礼のことば

・点 鐘

*会長あいさつ 美濃RC会長 西村 進様

皆様こんにちは。本日は2630地区ガバナー劔田廣喜様をお迎えして、ガバナー公式訪問関クラブ、関中央クラブ、美濃クラブの3クラブ合同例会を開

催されるにあたり一言ご挨拶を申し上げます。劔田ガバナーにはお大変忙しい日々をお過ごしのことと思います。本日は高山の地より美濃へおいで頂き有難うございます。ご指導をよろしく申し上げます。本年度の劔田ガバナーの活動方針テーマは「最も出席するもの 最も報いられる」とのことで、90歳以上の会員が美濃クラブ1名、30年以上100%出席の会員が美濃クラブ1名、関クラブが2名、関中央クラブが2名おられます。後程ガバナーから表彰されます。敬意を表するとともに心からお祝いを申し上げます。

また、出席率を「会長支持率」として発表することととてもプレッシャーを感じていますが、自分ではどうすることもできません。数字を真摯に受け止め今後の活動に生かしたいと思えます。

美濃市は一昨年本美濃紙がユネスコ無形文化遺産に登録されました。昨年度美濃ロータリークラブ60周年事業として「手すき和紙古田行三郎」に記念碑を贈呈しました。また、今年には「曾代用水」が灌漑遺産に、「長良川のあゆ」が農業遺産に登録されました。「曾代用水」と「長良川のあゆ」は美濃市と関市に共通の登録となっています。ロータリークラブも美濃、関、関中央の3クラブが協力し、またお互いに切磋琢磨し益々発展することを願って私の挨拶とします。本日は宜しく申し上げます。

*会員表彰

90歳以上の会員：在籍50年の正会員

武井利彦会員

30年以上100%例会出席

山田成一郎会員、山村誠示会員、早川力会員

広瀬恒行会員、前田仁夫会員

激励：35歳以下の会員

掛布真代会員



*被表彰者代表スピーチ

山村誠示様(関RC)

先程はガバナー直々に表彰状を賜りましたこと真に感謝申し上げます。ありがとうございます。今年度38年の皆出席ということになりますが、この皆出席できるのも健康もさることながら、やはり周囲の取り巻きに感謝いたしております。その一つとしましては私がロータリーに入会した時に、スポンサーが自分にも厳しく人にも厳しい姿勢の方でした。その教訓を受けましてロータリーはやはり例会に出席することが原点である。もし欠席したら必ずメイクアップして100%にきなさいと。でも決してそれは難しいことではないよと言われましたが、私も今日になってみると難しくなかったかなと思います。やはり習慣というものには習慣がつけば反復的に行動に自然にできるわけですのでいいことも悪いことも習慣次第だだと思います。

ロータリークラブはメイクアップという素晴らしい制度があります。ロータリーの出席を100%にできるということもメイクアップのおかげでございますが、それよりも世界で通用する人と一緒に肩を並べて同じ待遇で例会ができるということが素晴らしいと思います。

先般も大阪でのメイクアップで、私が25年ぐらい前に懇意にしていた方と突然お会いすることができましたこともメイクアップのおかげだだと思います。東京のメイクアップでも大変元気づけられました。私は関RCで一番の年長者ですが、私よりさらに年配の方がたくさんいらっしゃって元気はつらつとしていらっしゃる。親しくお話しさせていただいたら心から誘いを受けまして、一回ご一緒しましょうと、さすがロータリアンだと感じました。出席というのは決して忙しいからできるとかできないということだけではないということだけは事実と証明しておりますので一つ参考にしていただきたいと思います。それぞれのクラブの益々のご発展とみなさま方のご多幸を心からお祈り申し上げましてあいさつとさせていただきます。

前田仁夫会員(関中央RC)

ガバナー公式訪問で表彰いただきまして誠にありが

とうございます。今年度の地区の活動方針は「最も出席するもの 最も報いられる」この文言はロータリーで有名な「最もよく奉仕する者、最も報いられる」というのとイコールではないかと解釈しております。

私はダスキンの全国的な役を長い間しております、出張する機会が非常に多くありました。今まで国内外合わせて 450~500 回メイクアップをさせていただいておるのではないかと思います。当クラブは例会 1871 回目であります、体が健康な限りがんばりたいと思っております。

私は、継続は力なりという言葉が非常に好きで、昔からある言葉ですが小さいことでも続けていくと何か得ることがあるという風に思っております。私が 50 歳になったときに煙草をやめました。毎日 1 万歩歩くということで 32 年間 1 日も休むことなく歩いております。そういったことが例会に出られる秘訣かなと思っております。仕事の方の役も障がい者の方のリーダーの育成を長い間しております、16 年間のうちで一度も休んだことなく遅刻したこともありません。そういったことが習慣みたいなものになりまして今まで 82 年間やってきました。これからもよろしくご指導お願いします。今日は本当にありがとうございました。

*卓話 国際ロータリー

第 2630 地区ガバナー

劔田 廣喜様



今年度第 2630 地区ガバナーを務めます劔田でございます。所属は高山中央 RC です。皆様とともにロータリー活動ができることを大変光栄に存じております、どうか、ご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。2016 年度規定審議会で大きな変更があり、それによってクラブが混乱していると聞きます。

今回の規定審議会変更のバックボーンは、現在、国際ロータリーによると、ロータリー会員の 70%以上が 50 歳以上であり、30 歳未満が世界人口の約半分を占める今日の世界と大きくかけ離れています。会員増強のカギの一つは、例会に関する厳しい規則を和らげ、若い世代とデジタル志向の人びとのニーズに応

えること。若い世代の参加を促すには「時代に即す」ことが何よりも重要という考えに方にそった若い世代へのプロモーション、リクルートであると思えます。

2016 年度規定審議会の変更をひと言で云えば、クラブに柔軟性を持たせること即ち、今までは、決まったことを「頼り」にしていれば済んだところが、これからは、クラブの在り方全てがクラブにその自由と、責任が課せられたとも云えます。クラブが自主性をもって進むべき方向を決定しなければならないと云うことです。つまり発展するも沈滞するも、クラブ次第になったのです。

また見方を変えれば、日本の伝統的なロータリー文化を順守しようと考えれば、今まで以上にその理念を明確に打ち出すことも可能であると考えられます。いずれにせよ、RI の示す方向に進んでも良し、伝統を守っても良し、多様性が認められ、クラブは二極分化が進むでしょう。これからは、クラブが選ばれる時代となります。

それでは、クラブの方向性を示すものはなにか？云うまでもなくクラブ細則です。

細則の中で、独自性即ち所在地域における存在意義を示すことができないクラブいずれの方向性も示すことができないまま途中半端なクラブ、クラブ細則で管理運営できないきないクラブが衰退するであろうことは断言できます。（服部 芳樹 PDG 2016~17~18 年ロータリークラブ細則 原案解説参照）

クラブの自主性についてロータリーの 4 代目会長 フランク・マルホランドは「1 番大切な事は各 RC の自主性である。ロータリー運動は各 RC によって支えられ、RC が主体的に物事を考える為には、1 人 1 人のロータリアンの質が問われるのだ」と力説いたしました。

最近ロータリー活動が多面的になり、新しい会員には、ロータリーとは何であるか余程よく説明しないと、わかり難いと思われまので、ロータリーに経験の深いベテランロータリアンによる簡便な説明が伴わないと、ロータリーが何であるかわからないまま、或いは終わってしまうことにもなりかねないと

危惧しています。

単に定款・細則やロータリー用語の開設に終始することなく、会員自身がロータリーに興味をもち、自らがもっとロータリーを知ろうとする、そして一人でも多くの会員にロータリーが好きになるきっかけを与えることが大切ではないでしょうか。こうしてロータリーを知ることにより、ロータリーに情熱を燃やすようになり、意欲的なロータリアンになるものと思われまます。

今回の変更で見えてきたものがあります。それは、RIの変質であります。これまで、国際ロータリーは3年ごとの規定審議会を経るごとに、雪崩を打つかのように変貌し、今や国際ロータリーはロータリー財団頼みの組織に変質しました。国際ロータリーは人道的世界社会奉仕事業を金看板とする組織なのです。

国際ロータリーは、もう例会なんかやってもやらなくてもいいのです。ロータリーの奉仕の理念の研鑽、解明もどうでもいいのです。すべてクラブ、ロータリアンにまるなげです。つまり、直接監督権の放棄であり国際ロータリーの終焉の始まりです。ロータリー財団の国際ロータリーに変質してしまいました。今年度RI会長テーマは人類奉仕するロータリーです、そしてロータリー全体の目標は戦略計画の実践です。戦略計画の3つの優先項目は<クラブのサポートと強化><人道的奉仕の強化><公共イメージと認知度の向上>でしたが2014年10月④財政的継続性と運用有効性の向上です。これは、まさしく財団支援を意味しております。更にロータリー財団も優先事項として①ポリオ撲滅②財団の寄付推進③世界の6つの重点項目に特化した活動、財団の奉仕活動の質と影響力の向上④財団のこれまでの成果の強調を骨子としたものであります。ジョン・ジャームRI会長の今年度版戦略計画は、RIの戦略計画のそれぞれの優先項目の中にこの4つの財団の優先項目を組み入れたものであります、RIと財団の融和どころか財団がRIのすべてであり、財団のRIになってしまったのです。

ファイナルインチを迎えたポリオ撲滅に続いてRIが未来を託す巨大プログラムは世界平和に関するも

のでしょう。ノーベル平和賞まで視野に入れた徹底した成果主義によってRIのブランド、アイデンティティーの確立を目指したのです。これが財団100年の歴史が指し示すRIの方向性です。

この様に国際ロータリーは、人道的世界社会奉仕に向かって突き進んでいきます。私は人道奉仕が悪いと言っているのではありません。ロータリアンは常に弱者に涙する心を失ってはなりません、財団の寄付、人道奉仕はできる限りしなければなりません。ただ、それはロータリアンが例会で奉仕の心を身に着けたことの反射的效果にすぎないのですから、あくまでも、ロータリーの心を磨き職業奉仕の専心によって自分の職業を安泰にしてからということです。今や例会やクラブ委員会活動における人間形成への努力が忘れ去られ、寄付額や単なる社会奉仕活動の実績だけでロータリークラブやロータリアンが評価されることに重点が置かれ、その見返りにロータリーが失ったものはロータリー精神性、ロータリーの心であります。

私の、公式訪問の卓話で皆さんが反応、賛同するのはこのロータリーの心のところです。それは、近年のロータリーは金集め、人集めの色彩が濃いからではないでしょうか？ロータリアンの多くが最近のロータリーは少しおかしいと考えていからではないでしょうか？

ここで、ロータリーの心を説明させていただきます。

(ロータリーのこころ) 私達はこれまで(ロータリー)をあまりにも難しく考え、語ってきたのではないかと思います。ロータリーという組織は決して複雑で難解なものであってはならないし、そうなるものでもありません。なぜならばロータリーの理念は古くから人間が大切にしてきた道徳、つまり中国で古くから使われる仏教用語の寛恕(広い心で許す)(わたしは、思いやりの心、助け合いに心と言っております)。

ですから、ロータリーが訴えかけている奉仕の理念は時代を超えて変えてはならないロータリーの心と呼びなおしてもいいと思います。ここで、ロータリーのこころとは何かを解りやすく話させていただきます。「昔、インドに相思相愛の王様夫婦がおりました。

ある日王様が最愛の奥様に、『よく考えてみると、私は、最愛のお前より、私自身が一番愛しいように思う。』といわれました。それに対して奥様も、『実は、私も、貴方より私自身の方が一番愛しいと思います。』と答えられました。王様は『皆が皆、自分自身が一番可愛いと思ったら、この世の中は成り立たないから、お釈迦様に聞いてみよう。』と云って二人でお釈迦様を尋ねたそうです。お釈迦様は、二人の話を聞いて『人間は誰でも皆、自分自身が一番可愛いのです。それでいいのです。ただ、相手も、自分自身が一番可愛いと思っていることを忘れないように。』とお諭しになりました。」

ここに相手に対する思いやりの心が生まれるのです。自分以外の人に対する愛が始まるのであります。世の中の人々が皆、このような心、「他人の事を思いやり、他人のために尽くす」という心を持って初めてこの世の中が成り立つのであります。

自分自身を愛することが出来て初めて人を愛することが出来るのです。そして世の中の人々のことを考えることが出来るのであります。これがとりもなおさず「ロータリーの心」であります。

ここで職業奉仕の説明をします。職業奉仕は儲けたいという内向きのエネルギーとお客に役立ちたいという外向きのエネルギーの調和です。これは寛容なくしては果たせません。この相反するエネルギーを中心に、ロータリーの心(相手に対する思いやりの心)を置くことが職業奉仕であります。またこれが巡り巡って自らの利益へ帰ってくるという因縁果律(世の中の成り立ちは、善悪で構成されているのではなく、あくまで前世因縁なのである)。です。地球上でボールを投げあげたら、やがて地上に落ちてくることに似て、覆すことのできない自然の法則なのです。だからこそ永續きしているのです。

(ロータリーの変貌)

奉仕の第1世紀を終え、国際ロータリーはロータリアンに「ロータリーの心」を浸透させ、ひいては世間の人に高潔性を以ってなるロータリーとして認知してもらうという初期の目的を達成することに失敗しました。

「ロータリーの心」は世間で認知されないばかりか、

ロータリアン自身の職業上の不正も相次いでいます。ロータリーの存在すら世間に認知されていないありさまです。アインシュタインは語りました。「同じことを繰り返しながら、違う結果を期待することは、狂気である」と。かくして RI は従来の手法を変えて出してきたのが、「戦略計画」、財団の「夢計画」に他ならないのです。「戦略計画」それを支える「夢計画」で訴えていることは、「人道的奉仕活動の重点化と増加」であります。そのための財政的支援、それを可能にする会員増強、それを促進する公共イメージ、認知度の向上を目指したのです。ところが「人道的奉仕」が「職業奉仕」を凌駕してしまったのです。この変貌が行く末を不安にしている現在です。

このように、ロータリーから基本的理念が失われ、例会、職業奉仕は形骸化し、ロータリーの形骸化となり、安易なボランティア団体に移行してしまう事を絶対く止めなければなりません。それは、誇り高き日本のロータリー文化を受け継いで、例会、職業奉仕を大切にしたい人づくりのロータリーの構築です。

ロータリーはこれまで、産みの苦しみと、変貌に伴う波紋の中で哲学を構築してきました。愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶと申します。日本のロータリーの歴史を学ぶことによりロータリーの正しい姿を認識し、クラブの方向性を決めることが出来ると思います。わたしは、日本のロータリーの歴史とは？例会出席の歴史と言っても良いと思います。

第2次世界大戦中、アメリカのスパイ、秘密結社と言われ、日本のロータリーは大変な弾圧を受けます。京都 RC へ右翼団体が押し掛けロータリー解散を迫ります。その対応にあたった石川芳次郎会長は「ロータリーは職業人の集まりであって毎週例会において、世のため、人のための心を磨きその心を持って世のため、人のために奉仕をしている団体であります。したがって、忠国愛国、即ち天皇陛下の御為に奉仕活動をしている。」と説明したが聞き入れられず、最終的には「例会で日の丸を掲揚し、君が代を歌うこと」で話し合いがつかしました。京都クラブはさっそくこのことを日本中のロータリークラブに連絡し、

以後、日本のすべてのロータリークラブは日の丸を掲揚し、君が代を歌うことになりました。このことは現在にまで継続されています。

ロータリーに対するいやがらせや弾圧は増々露骨になってきて、ロータリーはRI脱会を余儀なくされました。しかし日本のロータリアンは「奉仕の理想」の精神を守り、名を変え、姿を変えて隠れキリシタンの様に例会を続けてきました。37あったロータリークラブのうち17クラブ(46パーセント)が空白の9年間の最後まで、例会を一度も休むことなく運営しきったのです。(内15クラブが毎週例会を開いていたのです)。

なぜここまでして、例会を大事にしてきたのか、それは、日本のロータリーの創始米山梅吉翁の言われた例会は人生道場という言葉に心棒していたからです。戦前のロータリアンはみんなこれを信奉し、例会をロータリークラブの中核にどっしりと据えていました。例会の途中で退席するなど、考えもしないことでした。中途退席が目立つようになったのは、戦後の1960~61年(昭和35~36)ごろではないかといわれています。

こうして私たちの先輩達が命の危険も省みず守ってきた誇り高き日本のロータリー文化を細則に反映することが、私たちの使命であると考えます。誇り高き日本のロータリー文化は、ロータリークラブの自治権(細則)でしか守れないと言う事をご理解いただきたいと思います。

我が国はこれまで、大化の改新によって中国文化の日本化に成功しましたし、明治維新によって西洋文化の日本化にも成功しました。アメリカ生まれのロータリーにも日本化の努力が払われました。ここに東西の温度差を生む土壌があります。また、国民性の違いもあります。合理性、効率性、論理性、数理性を重視し、自己主張により互いの違いを認識した上で始まる人間関係を基本とする西洋の国民性と、仁、義を重んじ(人間の間柄の美学)(情緒的人間関係)を大切にして、自己主張をできるだけ控えて人間関係の基本に(惻隠の情)をおくわが国の国民性とは確かに温度差があります。私はそれぞれの国民性の精神的基盤は、(キリスト教)と(武士道)の違いではな

いかと思います。

いまイチロー選手の3000本安打が話題になっていますが、ベースボールと言えはかつて地球の裏側に別のベースボールがあると日本の野球は揶揄されたものです。しかし今は日本人選手の活躍で日本の野球は見直されていますが、ルールは同じでも試合の進め方が異なるからです。ロータリーも国際ロータリーの定款、細則は共有していてもクラブ運営、目的が違っていいのです。

現在、国際ロータリーが変質し、ロータリーの、100年続いた伝統を、どんどん変えようとしている、と危機感を持っています

日本のロータリアンは、きちんと勉強し、ロータリーを学び、自主性をもつ必要があります。そして、何事にもロータリーの心を持ってあたると言う事です。今混迷の度が深い日本の社会でロータリーの心はもっとも必要な心ではないでしょうか。

(「続ロータリーを語ろう」・「新ロータリーを語ろう」RID2680 久野薫パストガバナー著参照)

*出席委員会

会員数29名、本日の出席17名です。

*ニコボックス委員会

・会長、副会長 ガバナー公式訪問 劔田ガバナー
本日はよろしくお願いします。

18名のご投函ありがとうございました。

*幹事報告

9月8日例会終了後、理事役員会を行います。

*メイクアップ報告

8月25日インフォメーション

伊佐地金嗣R情報委員長、石原妙生会長、波多野篤志幹事、高井良祐会員、小川糧司会員、長谷川修会員、吉田和也会員

<次例会の案内>

第1873回 2016年9月15日(木)

会員卓話 川上勉会員

テーマ 「建物の寿命」 担当/副会長